

喜界町



議会だより

166号

平成29年2月1日発行



主
な
内
容

新議会の構成	2
常任委員会報告	4
一般質問に6名が登壇	7
諸般の報告	13
読者の声・編集後記	14



発行／喜界町議会 編集／議会広報編集委員会
 〒891-6292 鹿児島県大島郡喜界町湾1746番地
 TEL:0997(65)1115・FAX兼用

初日の出(蒲生集落から望む)

初 議 会

平成 28 年第 1 回臨時会

新議会の構成

議長に 外内 千里 議員、副議長に 上間 一寛 議員

議会議員選挙が9月25日に執行され、現職8名、元職1名、新人3名でのスタートとなりました。

初議会は、11月1日に開催され正副議長、各常任委員会委員の構成が行われました。その結果、議長に外内千里議員、副議長に上間一寛議員、議会運営委員長に上間一寛議員、総務常任委員長に榮哲治議員、産業福祉委員長に安田英次郎議員が選任されました。



上間 一寛

副議長

就任のあいさつ

議員各位のご推挙により副議長の要職に就任いたしました。

大変名誉なことであると同時に責任の重大さを痛感しているところでございます。

激動する経済社会情勢の今日、行政と切磋琢磨しながら住民全体の福祉の向上と地域社会の活力ある発展を目指し、誠心誠意努力する所存で

ございます。

どうぞ町民の皆様には、これまで同様議会に対するご理解と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



外内 千里

議長

就任のあいさつ

去る十一月一日に開られました臨時議会で議会議長に選出されました。この場をお借りし、町民の皆様、同僚議員の皆様にお礼を申し上げます。本議会は、今回定数を十四名から十二名に削減致し、三十代の議員が三名も当選しております。少数精鋭で少子高齢化対策、子育て支援、産業の活性化等、若いメンバーの新しい

感覚をくみ取り執行部の皆さんと切磋琢磨し、議会運営ができたらと考えております。

また町民の皆様に関心を持っていただき、議会活動が身近に感じる議会を目指したいと思っております。町民皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

議会新体制

常任委員会

各所管の事項について、調査及び審査を行います。
 議員はそれぞれ一つの常任委員になるものとされています。
 (◎印は委員長、○は副委員長)

◆ 総務文教委員会 (定数六名)

所管事項 町の重要計画・財政・町税・道路・
 港湾・水産業・教育に関する事。



外内 千里氏
 【無所属・志戸桶】



○ 河上 弘仁氏
 【無所属・小野津】



◎ 榮 哲治氏
 【無所属・上嘉鉄】



良岡 理一郎氏
 【共産党・西目】



生駒 弘氏
 【公明・城久】



里村 忠弘氏
 【無所属・佐手久】

◆ 産業福祉委員会 (定数六名)

所管事項 農業・商工業・観光・町民生活・環境・
 保健・医療・福祉に関する事。



幸 一美氏
 【無所属・湾】



○ 野間 弘也氏
 【無所属・中里】



◎ 安田 英次郎氏
 【無所属・坂嶺】



榮 優太氏
 【無所属・湾】



峰山 恵喜光氏
 【無所属・早町】



上間 一寛氏
 【無所属・手久津久】

◆ 議会運営委員会

- 委員長 上間 一寛 議員
- 副委員長 榮 哲治 議員
- 委員 安田 英次郎 議員
- 委員 河上 弘仁 議員
- 委員 野間 弘也 議員

◆ 奄美群島広域事務組合議員

外内 千里 議員

◆ 大島地区消防組合議員

榮 哲治 議員

◆ 大島農業共済組合議員

野間 弘也 議員

◆ 奄美大島地区介護保険 一部事務組合議員

安田 英次郎 議員

◆ 監査委員

峰山 恵喜光 議員

平成28年度 一般会計補正予算は 1億1,698万円を追加して 60億2,878万円に

常任委員会報告

総務文教委員会

総務文教常任委員長 榮哲治 議員

■ 一般会計

【総務課所管分について】

一般管理費の役務費十二万五千円は、嘉鈍の海岸線に打ち上げられた漂着船の処理手数料、産業医委託料六十三万円、公会計制度導入措置助成業務委託料二百七十五万円、工事請負費四百七十四千円は太陽光による避難街路灯を三基設置する予定、ふるさと寄附金事業の需用費三百三十万円は返礼品代。

【質疑の主なもの】

質疑 漂着船はどこからのもので、処理はどのようにするのか。

答弁 東日本大震災で被災した岩手県大船市所属の漁船である。引き上げてあるので産廃業者に依頼をする。

平成二十八年第四回定例会は、十二月七日から十三日までの七日間開催されました。
初日は、一般質問（議員六名登壇）。平成二十八年度一般会計補正予算・特別会計補正予算・条例等十二件については、各常任委員会に付託しました。

最終本会議には、平成二十八年度喜界町一般会計補正予算、特別会計補正予算及び条例等十二件を可決し、追加提案された条例二件及び工事請負変更契約は、原案のとおり可決しました。



被災地からの漂着船

質疑 街路灯の設置箇所はどこか。

答弁 役場正面左側、老人ホーム付近、休養村付近の三カ所である。

質疑 産業委託料の増額は。

答弁 職員の健康指導の回数が増えたため。

質疑 公会計制度の今後について。

答弁 二十九年度までに新基準での帳票等の公表を固から指導、それに向けて資産台帳等の作成から新基準で対応するための指導助言を受けながら進める。

【企画観光所管分について】
文書広報費の印刷製本費三十八万円は、従来の健康カレンダーにかわり、行事カレンダーを企画観光課で作成するもの。企画費の旅費の増額は、喜界馬の受け入れに係る視察、奄美パークのリニューアルに伴う打ち合わせ、創生事業の検証委員会にかかわるもの、景観形成環境保全活動支援事業助成金六十五万四千円の内訳は赤連、西目、阿伝、中間、島中、滝川、先山、城久、浦原、先内、志南の十一集落で集落美

化環境保全にかかわる消耗品代。

【質疑の主なものについて】

【質疑】 喜界馬の今後の見込みについて。

【答弁】 島内の牧場に委託をし、飼育期間を経て最終的には観光事業等への活用を考えている。飼育が難しいことを考慮し、研修等を積極的に行っていく。頭数は、二頭を考えている。



昭和40年頃の喜界馬

【教育委員会総務課所管分について】

事務局費の備品購入費百十六万円は、防災関連施設の机・椅子、書棚等です。給食施設費の旅費二十八万九千円は、新しく給食センターが稼働するに当たっての始良市への職員研修旅費です。需用費の燃料費二十八万七千円、光熱水費八十五万円は、新しい給食センタ

ーの試運転経費、備品購入費の軽自動車購入費百九十万円は牛乳運搬車、学校給食用コンテナ購入費百五十万円はパン等物資用コンテナです。

【質疑の主なものについて】

【質疑】 パン工場は閉鎖するのか。

【答弁】 建設費が膨大になるため閉鎖をする。

【質疑】 パン食の回数は。

【答弁】 週一回で自然解凍である。

【質疑】 軽自動車の使用は。

【答弁】 Lし牛乳から普通牛乳にかわるため、冷蔵機能つきの特別仕様車である。

【教育委員会生涯学習課所管分について】

埋蔵文化財発掘調査費の賃金二千六百二十五万八千円は発掘調査作業員九十名分と整理作業員三名分の三カ月分です。旅費百六万円は、県内県外から発掘の支援に当たる専門家の派遣旅費です。印刷製本費三十万円は写真の現像代です。委託料七十二万五千円は報告書作成分です。

【質疑の主なものについて】

【質疑】 航空写真でドローンの活用はできないか。

【答弁】 フィルム撮影のため大きさの問題もあるが、機種等を確認し、今後検討する。

【質疑】 作業員の雇用の今後の見込みについて。

【答弁】 今後、中里地区については、県の掘らずに保存するという方針もあり、減っていく可能性がある。



荒木地区遺跡調査風景

【条例について】

町長等の給与等に関する条例等の一部を改正する条例について

人事院勧告に基づき、町長、副町長、教育長、議会議員の期末手当の支給率を改正するものであります。十二月の

期末手当支給率を、百分の百六十五から百分の百七十五に改めるもの。公布の日から施行し、平成二十八年十二月一日から適用するものです。平成二十九年四月一日からは、増額分を六月分と十二月分で案分をする。

【質疑について】

【質疑】 人事院勧告は国家公務員に対するものであるが、一般公務員だけでなく特別職も対象となるのか、また、国家公務員に準ずるものであるが、町においての基準は。

【答弁】 人事院勧告では特別職は対象で



審査する総務文教委員会

はないが、国が一般職と合わせて特別職も上げているため、国に倣い、これまでも改正を一般職と合わせて行っている。町においては人事勧告に基づき、国家公務員に準ずる形で行っており、職員組合との交渉においてもそれが基準となっている。

産業福祉委員会

産業福祉常任委員長 安田英次郎 議員

水環境課

水環境総務費百五十万五千円の増額の主なものは、前処理施設ポンプ等の修繕費です。

土木総務費七百十三万円増額の主なものは、公共下水道事業特別会計への繰出金です。

保健福祉課

高齢者福祉費百二十万円増額は、配食サービス委託料で、昨年より二百食あまり増えた事により当初二業者から三業者に増えたため。

障害者福祉費一千七百一万九千円の増額の主なものは、障害者自立支援給付費の一千五百六十一万九千円の増額によるもの。

児童福祉総務費八百九十四万五千円増額の主なものは、保育士とみなされる子育て支援員の研修旅費補助七十六万八千円、保育所運営費八百三万七千

円です。

農業振興課

農業振興費六百万円の増額は、新たに借り受ける農地又は、既存の経営農地において収益力の高い作物を導入する取り組み等により、収益向上を目指す担い手を支援する事業で、10 aあたり五万円補助するもの（ブロッコリー、マンゴー、トマト、カボチャ）。

自然休養村管理センター運営費、九百二十万円の減額は、来年度に、クレーン設備工事をするため減額するもの。林業振興費四十七万八千円の増額は、シカ駆除に伴う猟友会の報償費十万元、旅費（六名分）二十七万八千円需用費の駆除費十万元。



シカ駆除農

【質疑の主なもの】

【質疑】 鹿の駆除の予定日について。

【答弁】 予算がつき次第執行する予定です。

【質疑】 休養村のクレーン工事はどのくらいかかるか。

【答弁】 一千二百万円くらいの予定である。

【特別会計】

国民健康保険特別会計補正予算

歳入歳出それぞれ五百八十二万五千円を追加し総額十三億六千九百九十五万円とするもの。

増額の主な理由は、各保険給付費の増額によるもの。

介護保険特別会計補正予算

歳入歳出それぞれ百四十七万五千円を追加し総額九億四千九百八十一万八千円とするもの。

増額の主な理由は、特定入所者介護サービスの増によるもの。

屠畜場特別会計

歳入歳出それぞれ百八十万円追加し総額一千百八十三万四千円とするもの。増額の主なものは、屠畜場修繕工事に伴うもの。

簡易水道特別会計

歳入歳出それぞれ二億八千五百五十三万三千円を減額して総額を十億五千二百三十六万六千円とするもの。

今回の補正は、国庫補助金の減による簡易水道整備事業工事に伴うもの。

公共下水道特別会計

歳入歳出それぞれ六百四十三万二千円を追加し総額を一億九千四百四十五万六千円とするもの。

今回補正の主なものは、消費税申告に伴う増額。



審査する産業福祉委員会

町政のここが聞きたい

いっぱい質問

第3回定例会で6名の議員が町政全般にわたり一般質問を行いました。質問と答弁を要約して紹介いたします。



質問する
生駒 弘 議員

質問
町民生活安心・安全について

質問 地域防災計画では、防災体制の確立、防災事業の促進、災害復旧の迅速・適切化を定めており、さらに多様な災害発生に備え、地域防災マニュアルや避難所運営マニュアル等を整備することになっている。

答弁 喜界町では、避難所運営マニュアルが整備されているが、避難所運営について、どのようにされるのか。

答弁 町長
平成二十六年三月に策定しました喜界町避難所管理運営マニュアルに依り、風水害の発生時にはライフラインの途絶や住居の浸水及び消失などにより、多数の避難者が発生することが予想されるので、各避難所に、自主防災組織、町職員、施設管理者、地域の

ボランティア団体、各活動班等で構成される組織で、避難所での課題、問題に対応できるような運営を検討しているところです。

質問
小中学校の教室に空調設備の設置について

質問 十月十八日に、喜界小と喜界中の特別支援教室を視察させていただきました。他の教室も視察しましたが、教室の中に入るとむっとしていて、いつもこんな暑いところで勉強をしているのかと思うと、何とか冷房をつけられないものかと思えます。暑いところで勉強するより、涼しいところのほうが、教える先生も生徒も授業に対する集中力が違うのではないかと。

答弁 教育長
現在、小中学校において、空調施設は保健室、パソコン室、図書室等の特別室は以前から設置してあります。また、校長室、職員室、事務室、主事室、特別支援室等については、平成二十五年度に設置しました。

各教室については、現在、設置していませんが、近年温暖化の影響で、八月十七日には喜界町で三十五・一度という観測史上最高気温を記録したように、学校から、教室の温度がとて高いため空調施設を設置してほしいという要望も上がっている。

空調施設は価格も高く、また電力の消費量も大きいことから、一斉に各教室に設置することは困難ですので、町の財政面を考慮しつつ、各学校の教室の風通し等の実情に基づいて、学習に困難を来すような教室については、改善に努めていきたい。



喜界中学校(3年生教室)

質問
フェリー運航について

質問 週五便の運航について町民の生活に合わなくなってきており、日曜日、月曜日の運航を望む声が大きくなってきている。特に園芸農家、島外での活動機会が多いスポーツ関係者、観光関連事業者の声は切実である。現状認識を伺いたい。



質問する
良岡 理一郎 議員

答弁 町長
鹿児島〜喜界〜知名航路は、町民の生活に欠かせない最重要航路である。通院や商用など人の移動、物資の輸送に欠かせない交通の要であると認識している。

質問
町の活性化の要のひとつは航路の拡充にあると思う。週七便体制をフェリー事業者に要請すべきと思うが見解を伺う。

【答弁】 町長

同航路は日本で最も赤字が多い航路で、国や県から多額の補助金と奄美群島各市町村の負担金で赤字を補てんし運航している状況である。過去十年間で約五十九億八千万円の補助を受けている。週五便体制を維持するのが先決であり、週七便体制は厳しい。



フェリーきかい(日、月曜日の運行は)

【質問】

シカや外来植物について

【質問】

最近、シカの目撃情報や被害が起きている。現状認識と対策の進捗を伺う。

【答弁】

農業振興課長

シカについては、小野津や志戸桶集落、百の台周辺での目撃情報があり、サトウキビや柑橘の葉(新芽)を食害する被害がある。対策として猟友会奄美支部の協力・支援を受け、駆除を行う。

【質問】

ホシアサガオが蔓延しゴマ農家が被害を受けている。また、ギンネムが畑の周辺、道路端や法面を席巻している。早急な対策が必要だが、見解を伺う。

【答弁】

農業振興課長

ホシアサガオ対策については、ゴマが農業不使用栽培であるため管理機やじんかいで除草であり、今年度から管理機の購入助成を行っている。ギンネム対策については、町と各地区の農地・水組織と連携し農道ならびに畦畔の除草対策を行う。

【質問】

学校給食について

【質問】

学校給食費について、子育て世代への応援、若い世代の定住化の促進の観点から給食

費を無償化する自治体も増えつつある。本町でも検討したかどうか。

【答弁】

教育長

本町としては、児童・生徒分の給食費に対する支援策として主食代、添加物代および牛乳代の全額を負担し、幼稚園については牛乳代の一部を負担している。平成二十七年年度決算で言えば給食費について約一千二十四万円を町が子育て支援策として負担している。給食費の無償化を実施すると新たな財政負担を伴うので国の情勢や他の自治体の子育て世代への支援策等を見守りながら検討していきたい。

【質問】

学校給食費の徴収はだれがどこでどのように行っているのか。

【答弁】

教育長

給食センターが一ヶ月ごとに各学校・幼稚園に請求し担任の教諭が児童・生徒から現金で徴収している。

【質問】

滞納者について、その原因

と対応、滞納状況について伺う。

【答弁】

教育長

保護者から「申出書」を提出していただいた上で、子ども手当から給食費を差し引く方法を実施しているところもある。平成二十七年年度の滞納者はゼロである。

【質問】

子ども医療費について

【質問】

「子供医療費の窓口負担ゼロ」を掲げた三反園鹿児島県知事が九月議会において具体的な検討を表明していることについて見解を伺う。

【答弁】

保健福祉課長

平成二十七年年度から財源確保に苦慮しながらも支給対象を高校生まで拡充している。ひと月の医療費三千円を超える分を助成し、町民税非課税世帯は全額助成している。県知事の「子供医療費の窓口負担をゼロ表明」については推移を見守りたい。

【質問】

お金の心配なく病院に行け

ることは保護者にとって安心である。本町でも自己負担をゼロにしたらどうか。

【答弁】

保健福祉課長

財源確保が課題であり県の子ども医療費補助制度の動向を注視していく。

【質問】

ふるさと納税について

【質問】

現状の到達点と今後の計画について伺う。

【答弁】

総務課長

十一月二十八日現在、三百三十七件、約八百八十一万円であり、件数で四倍、金額で二・三倍である。今後は広報



ふるさと寄付金返礼品

や返礼品を充実させ寄付者を増やしていきたい。ふるさと納税制システムの導入など検討していく。

質問

他の自治体と比べて本町の良さは、都会で郷友会が島校区、シマ(集落)同窓会単位で活発に行われていることにある。町民の力も借りながら喜界島出身者、その2世、3世にふるさと納税を訴えたらどうか。

答弁 総務課長

今後も島出身者や関係者の力を借りながら郷友会や同窓会等での広報活動を強化していく。



質問する
榮 哲治 議員

農業振興について

質問

本町は基幹産業である農業の安定的な所得向上を目指し農業立島を打ち出しておりま



複合経営(畜産と園芸)

すが農業産出額が徳之島や沖永良部の島々と比べて低いのが現状です。その理由としては、あまりにもサトウキビに依存しているからだと思えます。二〇一〇年度の統計で本町の農業産出額に占めるサトウキビの割合は七十二%であ

り奄美群島全体の三十四%の二倍を越えています。サトウキビの最大産地である徳之島でも四十四%であり、さらに複合型農業を実現している沖永良部では十七%と低く本町がいかにかサトウキビに依存しているかが解ります。その事が人口減少に拍車をかけているとの見方も根強いと思います。ハーベスター等の大型機械化もあり耕地面積を増しても雇用増加には繋がりません。雇用を生む農業、儲かる農業への転換が必要であります。

複合型農業をどの様に推進するのが見解を伺います。

答弁 町長

本町の農地(耕地)は限られた面積しかありません。本町の農家所得並びに農業生産を向上させるには、農地一筆の単収や生産額を向上させることが必要不可欠です。そのためには、まずは堆肥や緑肥、有機物を利用した土作りを推進し一筆の単収向上が不可欠であり、さらに製糖工場の安定操業量を確保しつつ、ゴマをはじめとした畜産や園芸作物の複合をする事で、その限られた農地で農家の所得なら

びに農業生産が向上のひとつだと考えています。今後もサトウキビ、畜産、園芸との複合型農業を推進したいと考えています。



質問する
幸 一美 議員

公園等の施設整備並びにバリアフリーについて

質問

現在スギラビーチで利用できるトイレは海水浴場のみで高齢者には場所的に遠く、しかも少人数対応ということで行列ができる状況にあります。またプレイ途中の休憩所も必要になってきますが、ベンチがありません。又夏場は日差しも強く熱中症予防の面でもあずま屋(休憩所)が必要と思われる。以上のことからトイレ、ベンチ、あずま屋等の設置は出来ないか。

答弁 企画観光課長

多くの方々が利用される多目的広場は、オープンから二

十一年が経過をしています。アダンの植栽分布の広がりや、遊具やバスケットコートなどの劣化などがあます。また、そのほかの公園も整備しなければならぬ箇所があります。そのため、企画観光課では、施設それから公園の補修、整備箇所をピックアップし、計画的に整備を行いたいと考えています。



スギラビーチ多目的場

質問

総合グラウンドもスギラビー
千同様多くの町民が集う場所
です。車での来場者も多く、
国旗掲揚台裏の駐車場から昇
降に利用しているのが掲揚台
前の階段です。階段からの転
落防止を含め手すりの設置は
出来ないか。

答弁 教育長

現在、町総合グラウンドは、
各種体育大会や各種団体のス
ポーツ活動で広く御利用いた
だいていらっしゃるそうです。議員
御指摘の階段は、掲揚台裏駐
車場とグラウンドとの往來の
際、最も利用される階段であ
りますが、手すりがなく不便
さを感じる方もおられると思



聖天台階段に手すりを

います。また、町民体育祭や
長寿会連合会スポーツ大会の
開会行事において、国旗町旗
の掲揚を行っていますが、国
旗町旗保持者の方々には、昇
降が困難な階段であると認識
しています。

教育委員会としては、町民
が安心して利用できるように、
早急に設置したいと考えて
いるところです。

質問

高齢者介護について

質問

現在、老人ホームの入所制
度が見直されて、以前ほどの
待機者もいないようです。ま
た、ショートステイも同様に、
最近は減少傾向にあります。

また、老人ホームもこの入
所制度の見直しのために、入
所できない方々が増え、将来
的には老老介護が増えて来る
と見込まれます。

そこで、老老介護世帯への
現状の取り組みと今後につい
て伺う。

答弁 町長

本町の平成二十八年度にお
ける高齢者世帯は約二百世
帯。単身高齢者世帯が約五百

世帯、身障者等の世帯につき
ましては、約百世帯でありま
す。要支援要介護状態にある
方で、介護保険サービスを利用
されている場合は、介護支
援専門員による、家庭や事業
所への訪問・相談が実施され
ています。また、金融機関や
配食サービス等、高齢者宅へ
訪問する事業者とも連携をと
り、情報提供等の協力をお願
いしているところです。

今後も、引き続き健康寿命
の延伸を念頭に、各種介護予
防教室や、見守り活動を集落
単位で展開し、高齢者等を地
域ぐるみで支え合う仕組み作
りを進めてまいります。

質問

災害弱者とも言える方が夜
間に火災、急病等が発生した
時に自力で電話通報し、脱出
は出来ないと思われる。この
ような状況の中で孤独死、事
故死を防ぐためにも緊急事態
をいち早く地域住民に発信す
る通報体制の完備こそが尊い
命を守る唯一の手段だと考え
ます。そこで緊急時の通報機
器として、パトライト(ブザー
付き赤色回転灯)の設置は出
来ないか。

答弁 町長

介護保険サービス等のサー
ビスを受けている方々へは適
時、適切かつ迅速に対処でき
るよう、各事業者や関係する
担当職員とも連絡がとれるよ
う、連携を密にしています。

また、見守り活動の対象と
なる方々へは、民生委員、集
落区長さんを主体とした地域
の活動の中で、日常生活の変
化を注視しています。今後も、
地域包括支援センターを相談
窓口として対応してまいりま
す。



質問する
野間 弘也 議員

質問

農業人口の減少について

質問

農業人口の減少が進んでい
ますが、農業人口増加に向け
た取り組みとして新規就農者
の確保についてどのように考
えているか。

答弁 町長

新規就農者の確保について



新規就農者研修(営農支援センター)

は、町の営農支援センターに
おける一年間の農業研修制度
を活用しております。平成二
十八年度は、三名が研修を受
けています。さらに、研修生
は研修終了後概ね三年間は、
町の営農研修用ハウス施設を
活用して営農を行い、その間
に各種補助制度を活用して農
地やハウスを確保する準備を
行っています。その他の新規
就農する農家に対しても、収
益性の高い作物栽培の指導を
行なって参ります。

質問

青年就農給付金について

青年就農給付金事業の問題
点は、現住所が喜界町にない
といけないということです。
島外で生活をしている方が、

喜界町で農業を始めたいという場合、対象外になります。町内だけでなく、島外にも募集をし、枠を広げていくべきだと思います。島内の方には、支援センター研修生として一年間経験を積み、その後青年就農給付金を五年間活用し、六年間で農業経営者として育ていき、島外の方については、「農の雇用事業」を活用し、二年から四年の経験を積み、その後青年就農給付金を五年間活用し、六年から九年で農業経営者として育てていくことで、島内、島外からも新規就農者を増やすことができるのではないかと。

質問

年度毎の採用者数について。

答弁

町長

平成 24 年度	4名
平成 25 年度	2名
平成 26 年度	3名
平成 27 年度	0
平成 28 年度	2名

質問

採用者のその後について。



農業青年クラブによる農業体験ツアー

答弁

町長

現在のところすべての方が営農を続けております。

質問

事業の課題はないか。

答弁

町長

計画通りの農地の確保などが進まず、申請時に立てた所得目標を、一部の農家が達成できていないことにあります。

質問

今後取り組みについて具体的な目標があるか。

答弁

町長

青年就農給付金の受給が終了した後も安定した農業経営が行えるように支援を継続します。

「農の雇用事業とは」法人や自営農業者に就職した青年に対する研修費として、年間最大百二十万円を最長二年間助成。また雇用した新規就農者の、新たな法人設立・独立に向けた研修費として、年間最大百二十万円最長四年間、三年目以降は最大六十万円助成する。



質問する
峰山 恵喜光 議員

質問

子育て支援について

質問

子育て支援を行政の施策として、基本的な考え方はどうなっているか。

答弁

町長

喜界町子ども・子育て支援事業計画では、「安心して子供を産み、健やかに育てること

とができる環境づくり」を基本理念として定めている。この基本理念に基づき、関係機関と連携して子どもの健やかな成長のために適切な環境が確保されるよう取り組んでいます。また、事業計画全体の成果についても点検・評価を行い施策の改善に努めて行きます。

質問

本町の子育て支援のこれまでの実績はどうであるか。

答弁

保健福祉課長

経済的な支援として、児童手当や子育て臨時給付金、多子世帯・ひとり親世帯等の保育料の軽減など国の制度に加え、本町独自の支援として、子ども医療費助成制度を十八歳まで拡充しています。

子どもの環境整備については、平成二十七年から国の「子ども・子育て支援交付金」を活用して、放課後児童クラブ事業、幼稚園の預かり保育事業、保育園による延長保育事業を実地しています。また、子育て地域拠点事業を活用して「子育て支援センターひまわり」を週三回開設しております。放課後児童クラブの利

用児童数は現在、湾児童クラブが三十九名、早町児童クラブが四十二名、幼稚園の預かり保育は、あゆみ幼稚園で二十三名、のぞみ幼稚園で六名が登録し利用しています。保育所の延長保育事業では十四名が登録し十八時から十九時まで利用しています。また「子育て支援センターひまわり」では、子育てに対する相談やお子さんの健康チェック、遊びや読み聞かせを通じた親子の交流など、子育ての情報交換の場として年間延べ三千人の親子が利用しています。

質問

子育て中の保護者の悩みの実情はどうなっているか。

答弁

保健福祉課長

子育て中の保護者の悩みについては、健診、母子相談、母親学級、親子教室、乳児家庭訪問等で相談を受けている。悩み事や要望としまして、発育相談やひとりでの子育ての不安、ストレス、一時預かりや保育所・幼稚園への要望、医療機関の充実等があります。子育てに不安や悩みを持つ保護者が増えつつあることから、関係機関との連携を深め、安心して子育てが出来る

環境を整えて行きます。

質問

現在の待機児童の解決策をどのように考えているか。

答弁 保健福祉課長

現在の待機児童はひまわり第一保育園で十五名、ひまわり第二保育園で三名となっております。要因については、保育士不足と幼稚園入園対象児でも、保育園への入園を選択する保護者の増加が挙げられる。保育士不足への対応としては、広報誌をはじめチラシやホームページでの募集、また有資格者への直接交渉等に取組んでいる。待機児童の解消策として、保育園から幼稚園への移行を進めることもありますが、幼稚園を保育園並みの保育環境にするには時間を要することから、現在、保育士不足の解消策として、保育や子育て分野についての知識や技術を学ぶ研修会への参加旅費を助成し、保育事業所で働く「子育て支援員」の養成に取組んでいる。また、保育所では待機児童を含め〇歳児から二歳児が増加傾向にあるため、小規模保育所を整備し、保育士と子育て支援員を配置

したうえで委託運営できないかなど待機児童の解消策を模索しているところです。

質問

保育士の賃金アップは考えられないか。

答弁 保健福祉課長

国も待機児童ゼロの実現に向けて保育士の待遇改善を打ち出しており、平成二十八年度はひまわり第一保育園で処遇改善等加算が二%あり改善見込額は百四十四万円が見込まれており、ひまわり第二保育園も三%加算され改善見込額は八十四万一千円となり、正規雇用の賃金改善もなされております。また、臨時保育士も自給百円アップの改善をしております。保育士の賃金に充てる町独自の補助金については、国の制度の動向を踏まえて検討していきたい。

質問

来年度に向けた子育て支援の新しい施策をどのように考えているか。

答弁 教育長

平成二十九年度からは子育て支援の一環として、月一回



ひまわり保育園

第二水曜日の十四時から十五時まで、四歳以下の乳幼児とその保護者を対象に、子育てしやすい地域環境の提供を目指し、安心して子ども達が遊べる場所、更には保護者同士の情報交換の場として
①幼稚園園庭開放(固定遊具)
②子育て相談(悩み相談や情報提供等)
を实地しようと計画しています。

今後、近隣市町村の状況等の調査をしながら、さらに子育て支援の施策を検討していきたい。

議会のうごき (12月～2月)

- 12月5日 喜界町議会運営委員会
- 12月7日 第4回喜界町議会定例会(一般質問等)
- 12月8日 各常任委員会(補正予算等審査)
- 12月13日 第4回喜界町議会定例会(閉会)
- 12月26日 奄美ドクターヘリ運行開始式(奄美市)議長
- 1月2日 喜界町成人式(全議員)
- 1月6日 消防出初式(全議員)
- 1月17日 正副議長研修会(奄美市)議長・副議長
- 1月18日 新元議員研修会(奄美市)新・元議員
- 1月31日 議員研修会(鹿児島市)全議員
- 2月21日 県議長会定期総会(鹿児島市)議長
- 2月22日 県町村監査員協議会定期総会・研修会(鹿児島市)峰山議員
- 2月28日 市町村長・議長合同会(奄美市)議長

諸般の報告

議長 外内 千里

※十一月八日、第二十五回離島振興市町村議会議長全国大会が、東京都市センターホテルにおいて行われました。

離島住民にとって航路、航空路の存続維持は必要不可欠であることから、地方自治体、民間交通事業者への手厚い支援が必要であり、離島航路航空路支援法（仮称）の早期制定を求める特別決議がなされました。そのほか、十三の離島振興策と東日本大震災の復興について決議がなされました。

翌九日は、NHKホールにおいて、全国町村議会議長会が開催されました。国会開催中であるにもかかわらず、安倍総理を初め多くの国会議員が出席されました。

大会は、地方議員の厚生年金制度への加入実現を求めるほか、四件の特別議決が採択され、全体要望二十五件、各地区九件の要望が採択されました。

なお、地方議員の厚生年金制度への加入を求める意見書の提出依頼が、全国市町村議会議長会より要請がありました。

※十一月十五日、離島議長行政調査が沖縄県石垣市で行われました。

調査項目は、石垣市における観光の

現状と課題について、新石垣空港開港効果について、観光移入客数が開港前の平成二十四年度七十万人から、開港後の平成二十六年には百十一万人。観光消費推定額が四百四十一億から六百四十億に増えていること。海洋クルーズで年間二十万人の人々が訪れていること。石垣マラソン、プロ野球キャンプ地の受け入れ及び交流イベントなど、さまざまな仕掛けを行っているとの説明でした。

畜産については、肉用牛を中心に乳用牛、豚、採卵用の鶏、ヤギ等が飼育され、農業総生産額九十四億の六十三%を占め、そのうち肉用牛が五十七%を占めております。

生産農家によりますと、団体へ装置開発事業、畜産基地建設事業を導入し、装置基盤の拡充が図られ、広い牧場でストレスがかからない肥育を行っております。また、石垣牛としてのブランドの安定供給にも努めております。

※十一月十六日空路東京へ向かい、郡市町村長と副町長、議長で、奄美群島振興開発推進に関する要望で、各省市町村、衆議院会館、参議院会館の国会議員を訪問し、陳情を行いました。朝山奄美市長と伊集院郡市町村長会長を中心とした二班体制で、出身議員の金子、保

岡両代議士との意見交換や、関係議員や関係省庁への奄美の現状を訴え、予算措置への協力要請いたしました。

※十一月二十六日、姉妹盟約を結んでいる伊佐市へ、町長と担当職員三名で、曾木の滝のみじ祭りへ招待を受けました。途中、伊佐堆肥センターを視察し、本町のバカス、牛ふん等の今後の処理について、ヒントを得ました。

残念ながら、もみじ祭りは雨のため中止になりましたが、曾木の滝の散策、こどもの森で、ピザ焼き体験をいたしました。伊佐市のもみじ祭りは、高校生を中心に企画運営をしておりますが、市長によれば、本町、しま興し祭りで講演した講師を招き入れ、高校生への支援に力を入れているとの説明でした。

※十一月二十七日 町長ともども徳之島へ移動し、奄美群島広域事務組合議会定例会と市町村議会議長会に出席いたしました。

議長会では六名の新議長の紹介の後、議長離職により空席となった副会長を宇検村の喜島議長、監事の龍郷町の窪田議長、和泊町の永野議長を平成二十九年の二月まで、役員として選出しています。

次回議会は、3月2日を予定しています。

午前 9:30 皆様の傍聴をお待ちしています。

●お問い合わせ先 65-1115

次回
定例会

◆読者の声◆◆◆◆◆

筑紫 綾 (湾)

今年アメリカでは予想外と言われているトランプ氏が次期大統領に、東京都知事選では「都民ファースト」を掲げた小池百合子さんが都知事に、そしてこの喜界島でも町議選で私たち同年代の方が町議となり、島に日本に世界に新しい風が吹いたなど感じた年になりました。

さて自営業を家族で営んでいる私ですが、これは島全体の事業所でもいえる事だと思いますが、島が本当に「過疎化」しているなど実感することがあります。それは「人手不足」です。今現在、働く人が見つかりません。スーパリーや色んな場所でも「従業員募集」の紙を目にしている方も多いと思いますが、本当に人がいないのです。あと数ヶ月もすればまた、高校を卒業する子どもたちがたくさん島を出ます。

きっとココにはない色んな物が都会にはあり、夢や希望を持って島を出ていくのでしょうか。二十数年前に経験した私の思いのように・・・
「ただ、いずれは島に帰ってきたい!」と思う子どもたちが一人でも増えてくれるにはどうしたらいいのだろうか?と考えるたりしています。

私は今、SNSを通じて喜界島を微力ながら発信しています。カメラが唯一の趣味の私は島の何気ない風景や景色、空・海をFacebook (フェイスブック) やInstagram

gram (インスタグラム) に載せ、一人でも多くの島んちゅや、島を全く知らない人たちに今の喜界島を知ってもらうため「#ハツシユタグ」をつけて、その後に「喜界島」と書いています。その写真を見た方に「懐かしいな」とか「喜界島初めて知りました」とか「いい所ですね」などのコメントをいただいています。数年前からSNSを使っていますでしたが「島」をもっともっと知ってもらいたい!と思うようになったのは三月に高校を卒業したある女の子の言葉がきっかけです。それは「人が目的の観光地」

この言葉、わたし的にカウンターパンチを数打浴びるほどの衝撃でした。「島ってなにがあるの?」と聞かれると「何もないよー来るんだったら夏においでよ」と今までそんな風に答えていました。観光地と呼ばれるものがない。と島に住んでいる人間が言っていたのを彼女の一言で変わったのです。

彼女の言葉からは島に対する愛情がすごく、すごく伝わってきて、自分が気づかなかった事、教えてもらう事がたくさんありました。そして実際に訪れる方が、後々SNS等でアップする言葉で多いのが「あたたかい島の友達」だったのです。

今、すごく住みにくい世の中になっていますよね?保育所を作るにしても防音壁や作ることで自体が反対だとか、「あいさつ禁止」の団地があったり、学校のチャイムがうるさいからと苦情がでてチャイムが禁止

になっている学校があったり・・・そんなニュースを耳にするたび本当に住みにくい社会だと思いましたが、でもこの島には忘れかけていた「つながり」想いというのが残っているのではないかと思います。

小一の娘は、学校の帰り道、お店のおじちゃんに声をかけて帰ってきます。街の中で子どもたちが帰っていると知っている人は車の中から手をあげてくれたり、声をかけたりしてくれそうです。皆さんが子どもたちを気にかけてくれています。日常のこの光景が向こうではだんだんと少なくなっているのでしょうか。だから私たち島にいる皆が「私たちに会いに島においでよ!」と言える島にすれば、改めて島の良さを知る島んちゅや、島の魅力に気づいてくれる人たちが「島にすんでみようかな?」なんて思ってくれるのではないかとポジティブに考えてみます。(笑)

最後に、私が思う島は「保守的」のイメージ。
もちろん昔からの伝統を後世に伝える事は大事な、大事なことです。絶対になくしてはいけません。が、新しい考え方を取り入れ、それを否定せず「失敗してもいいからちよつとやってみようか」というチャレンジも必要な今だと思えます。それは私一人ではできません。島の人達みんながそんな想いになってくれたらこの島も、誰が来ても住んでいる人たちも喜びの島に変わるのでないでしょうか。

編集後記

町民の皆様、明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはつづがなく新しい年を迎えることとお慶び申し上げます。

喜界町町長選挙で川島町長が二期目の当選をし川島町政統投の中、町議選でも元職一名、新人四名の計十四名が立候補し激しい選挙戦が行われました。現職八名、新人三名、元職一名が当選し新しい議会体制が十一月から始まりました。若い世代が三名も入り平均年齢が大幅に下がる中で議会にも活気が見えてきました。先輩達の経験や実績、若い世代の新しい発想や時代にあつた知識、能力、ネットワークを活かし、新しい議会運営の中で行政や町民の皆様と一丸となり喜界町の将来に希望と誇りが持てるまちづくりに取り組んで参りたいと考えています。

新しい年が活力に溢れ、町民の皆様笑顔が輝く素晴らしい年になりますように心から祈念申し上げます。

- 文責 優太
- 議会広報委員会
- 委員長 生駒 弘
 - 副委員長 河上 弘仁
 - 委員 良岡 理郎
 - 委員 野間 弘也
 - 委員 峰山 惠喜光
 - 委員 榮 優太